

暮らしの中から教材を見つけ、 一人一台タブレットを活用した家庭科の授業

—エシカル消費者でニューノーマル生活を（食生活）—

原田 悦子*

三浦 あゆみ**

山崎 貴洋***

1. 主題設定の理由

生まれたときから、必要なものはお金を出して購入するのが当たり前という環境で生きている生徒たちだが、普段どんなことを意識して買い物をしているかと聞くと、価格や見た目という意見が多く、狭い視野で判断しながら消費生活を送っている現状がみえた。「買い物は投票」と言われるように、消費行動を変えることで私たちの暮らしの在り方を変え、環境、経済、社会を持続可能なものに変えていく力をもっている。これから持続可能な社会の担い手になっていく中学生が、自分の消費生活が社会に及ぼす影響を知り、広い視野で責任をもって決定していく力をつけることはとても大切であると考えます。

ものが豊かになった現代では、消費者がどのような消費行動をとるかが、持続可能な社会の構築につながっている。一人ひとりの消費行動が社会に与える影響の大きさを考えていかなければならないときに来ているが、中学生にとってはまだ他人事であるように感じられる。しかし、中学生も立派な消費者であり、自らの意思決定に責任をもつ必要がある。近年、「エシカル」という言葉をよくみかける。この4月から使用されている教科書にも「エシカル消費」が掲載されている。インターネットで検索すると、「エシカル消費」「エシカルファッション」「エシカル商品」「エシカルコンビニ」等の言葉が出てくる。コンビニエンスストアでも「エシカルプロジェクト」のシールが貼られた商品を見かけるようになった。消費者庁ホームページによると、エシカル消費を次のように解説している。

エシカル（※）消費とは、地域の活性化や雇用などを含む、人・社会・地域・環境に配慮した消費行動のことです。私たち一人一人が、社会的な課題に気づき、日々のお買物を通して、その課題の解決のために、自分は何ができるのかを考えてみることで、これが、エシカル消費の第一歩です。（※）エシカル＝倫理的・道徳的

現在のコロナ下の生活は、以前とは異なった形態となっている。今の生活が当たり前となり、ニューノーマル生活と表されている。コロナ禍に加え、地球温暖化による自然災害の多発等もあり、生鮮食品の高騰も続いた。昨年のマスク不足が露呈したように、何らかの理由で輸入が滞ると、途端に国内の流通が止まってしまう。食料自給率が低い現状を考

*愛知教育大学家政教育講座 **知立市立知立南中学校 ***知立市立知立中学校

えると、当たり前に入りに入れることのできた食料がスーパーの棚から消えてしまう日がくるかもしれない。食料自給率が低いのに食品ロスの割合が高いという事実も見逃してはならない。そこで、エシカル消費をキーワードとして、生徒にとって身近で感心の高い食生活の消費行動から考え始めることで、より自分事として認識できるのではないかと考えた。食の安全性や農業就業人口の減少、地球環境への負荷、多くを輸入に頼る現状などを知る中で、自分だけ良ければいいという考えから、世界情勢や環境問題にまで視野を広げていけるであろう。多くの情報から適切な情報を収集・整理し、自分の価値観に基づいたエシカル（人や社会、地球環境に配慮する）な商品選択を考えさせることで、責任をもち行動できる生徒を育てていきたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究の構想

2.1 研究の目的

生活の中から教材を見つけ、一人一台タブレットを有効活用した家庭科の授業をつくる。

2.2 研究の仮説と手だて

仮説 1

生徒たちにとって身近なものを教材にしたり、生徒たちの生活と結び付けられるような問いの場を設定したりすることで、エシカル消費をより主体的に考え、実践することができるであろう。

<手だて①「エシカル消費と出合う場」の設定>

今回の実践の初めにはコンビニの商品や、取り組みを紹介する。生徒たちは普段からコンビニを利用しているが、商品の表示や看板に着目している生徒は少ないと予想される。そこで、生徒たちにとって身近なコンビニの取り組みに注目させることで、より自分事として問題を捉えていけるだろうと考える。

<手だて②「学校生活の中でエシカル消費を見つける場」の設定>

エシカル消費ということばはあまり聞きなれないかもしれないが、その考え方をよく知っていくと、生徒たちが普段当たり前に行っていることもエシカル消費の一部だということが分かる。それに気づかせるために、学校生活の様々な場面で「これってエシカル消費？」と問いながら学習をすすめていく。それを繰り返す中で、エシカル消費を身近に感じ、さらには自分たちで気づき行動に移すことができると考える。

<手だて③「無意識を意識化させる場」の設定>

さらに授業の間の日常生活の中で、普段無意識に行っている行動がエシカル消費だと気づかせることで、目的をもってエシカル消費を行おうと主体的に実践できると考える。

仮説 2

ICT を効果的に活用する場を設定すれば、自らの疑問について深く調べたり、問題を比較・検討したりして、学びを深めることができるだろう。

<手だて④「自分で調べ学習をする場」の設定>

今回、「エシカル」ということばに初めて出会う子が多いと予想される。そこで、個々のタブレットを使い、エシカルについて調べ学習を行う。分かりやすい資料を見つけたり、自分なりの言葉で表現したりする活動を行うことで、エシカルについてより理解を深めることができると考える。また、外国にルーツのある生徒たちにとって、タブレットを活用することは、母語で翻訳しながら調べたりまとめたりすることができるので、言葉の壁に対するバリアフリーとなり、学びを深めていけると考える。

<手だて⑤「シンキングツールを活用する場」の設定>

生徒たちはエシカル消費として自分たちに出来ることをいくつか考えると予想される。そこで、自分にとっての課題を明確にするために、ロイロノート（※1）のシンキングツール（※2）を活用する。自分の問題を可視化したり、問題を比較・検討したりする中で、自分の考えを整理することができ、学びを深めることができると考える。

- ・ロイロノート（※1）とは、知立市が使用するタブレットの中のアプリ。正確にはロイロノート・スクールといい、教室内でインターネットを使って学習支援を行うためのプログラム・システム・アプリのこと。
- ・シンキングツール（※2）とは、ロイロノートの中の思考ツールで、自分の考えをつくり出すことを助けてくれる道具。「比較する」「分類する」「関係付ける」など、考えるときのさまざまなパターンを図で示している。

2.3 単元構想（指導計画）6時間完了

主な学習活動	教師の支援
第1時 エシカル消費って何？ ・「エシカルプロジェクト」「てまえどり」の写真を見て、気づいたことを話し合う。 <u>手だて①「エシカルと出会う場」の設定</u> ・エシカル消費についてタブレットで調べる。 <u>手だて④「自分で調べ学習をする場」の設定</u> ・自分で調べた内容をロイロノートのテキストにまとめる。	・エシカル消費に気づかせるために、実際に行われているエシカルプロジェクトの写真を提示する。 ・食だけでなく、いろんな場面でのエシカル消費が検索されると思われるが、エシカル消費に関わることであれば、肯定的に受けとめる。 ・生徒から出た意見を広げながら、次の授業までに身近なエシカル消費を見つけてみようと思わせる。
<日常生活を見つめる①> ・街で家で学校でエシカル消費を見つける <u>手だて③「無意識を意識化させる場」の設定</u>	・生徒との対話を繰り返し、エシカル消費を見つめられたことを称賛する。

<p>第2時 もっと知ろう！エシカル消費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の終わりにロイロノートで提出したエシカル消費について共有し合う。 ・今自分たちが行っているエシカル消費についてグループで考える。 <p><u>手だて②「学校生活の中でエシカルを見つける場」の設定</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「エシカル消費」について理解を深めるために、事前に生徒が提出した意見の中から何人かのものを意図的に選んでおき、指名しながら進めていく。 ・友達に伝わるように、自分のことばで伝え合う活動を通して、理解を深めやすくする。 ・給食でおかわりをする写真、水筒でお茶を飲む写真を提示し、身近なことで実践できることを知らせる。
<p><日常生活を見つめる②></p> <ul style="list-style-type: none"> ・街で家で学校でエシカル消費を意識して行動する <p><u>手だて③「無意識を意識化させる場」の設定</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の言動から、エシカル消費を意識して行えたことを称賛する。
<p>第3時 シンキングツールで検討しよう！マイエシカル宣言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時に考えた自分達がしているエシカル消費の中から食生活に関わるものを確認する。 ・ロイロノートのシンキングツールを使い、x軸を行動のしやすさ、y軸を人や環境などへの影響の大きさとし、カードを並べる。 <p><u>手だて⑤「シンキングツールを活用する場」の設定</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<家でしていること>を考える視点として、『買い物するときにかけること』『料理を作るときにかけること』『食べるときにできること』などをあげて、意見を出しやすくする。 ・行動のしやすさが分かりにくい場合は、『自分自身で行動できることか』を基準に考えるようにアドバイスする。 ・影響の大きさが分かりにくい場合は、『自分が行動することでどれだけ周りが影響を受けるか』を基準に考えるようにアドバイスする。
<p><日常生活を見つめる③></p> <ul style="list-style-type: none"> ・街で家で学校でエシカル消費を意識して行動する <p><u>手だて③「無意識を意識化させる場」の設定</u></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の言動から、エシカル消費を意識して行えたことを称賛する。
<p>第4時 決定しよう！マイエシカル宣言</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時のシンキングツールの表をもとに、マイエシカル宣言を考える。 ・グループで発表し合い、アドバイスをを行う。 ・マイエシカル宣言を決定し、実践計画を立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・12月に報告会を行うことを伝え、それまでに実践できそうな内容か確認するように伝える。 ・アドバイスの視点として、『実践が可能な内容か』『人や環境への影響』を考えるように伝える。
<p><日常生活を見つめる④></p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイエシカル宣言をもとに、日常生活で実践を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と対話を繰り返し、実践の様子を定期的に確認する。
<p>第5時 実践報告会をしよう！①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで各自の実践報告を行う。 ・実践内容について自己評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実践について、どんなところが良かったのかを具体的に伝えてあげるようにアドバイスする。 ・3月にもう一度報告会を行い、継続できているかを確認することを伝える。
<p>第6時 実践報告会をしよう！②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続して実践できたか報告会を行い、最後のまとめをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・折に触れ、エシカル消費を話題にし、実践の様子を見守っていく。

3. 実践と考察

正しくは「エシカル消費」であるが、生徒の発言・資料等には「エシカル」という表記で授業を進めた。

3.1 第 1 時 エシカル消費って何? 【手だて①・④】

本單元では、エシカル消費との出会いがキーポイントとなる。エシカル消費ということばを知っている生徒はほとんどいないと予想したからである。実際にエシカル消費を知っていた生徒は一人のみであった。しかし、今後エシカル消費は今よりも多く使われるようになって考えられるので、彼らにとってより身近に感じてもらいたいと考えた。そこで、エシカル消費の出会いとして生徒達がふだんよく利用するコンビニの取り組みを紹介することにした。まずは資料 1 の「てまえどり」のパッケージから提示した。「これってどんなことを意味しているのかな」と問うと、「手前から取るってことだよ」と口々に話す生徒たち。「なぜ手前から取ってほしいのかな」と続けて問うと、「それがおすすめってことじゃないかな」「前の方がおいしいってこと」と色々な意見が出た。続けて資料 2 の写真を見せたところ、すぐに「エシカルプロジェクト」「これを買おうとお得になるってことだよ」という意見が出た。しばらく沈黙が続いた後、ある生徒が「分かった。買ってもらいたいってことは、賞味期限が短くなっているものなんだ。それを買ってもらって無駄をなくそうということではないかな」と発言すると、教室中になるほどという空気が流れた。エシカルプロジェクトの意味が分かったところで、「エシカルってことばは知っていますか」と尋ねると、知っている、見たことがあると答えた生徒は一人のみでほとんどが初めて聞いたということだった。生徒 A もエシカルということばは初めて聞いたようで、「全く聞いたことない言葉で難しそう」と授業記録に残していた。

次に、エシカルということばを生徒たちにどう理解させるかが重要になってくる。しかし、教師がその意味を伝えるだけでは、生徒達の心に残らないのではないかと考えた。そこで、エシカルのことを深く理解させるために個々のタブレットで調べ学習を行った。タブレットでインターネットを利用し、自分自身が理解しやすい説明やイラストを見つける



資料 1 : てまえどりの写真
※セブンイレブン HP より



資料 2 : エシカルプロジェクトの写真
※セブンイレブン HP より

ことができれば、より理解しやすいと考えたからである。また、本校は外国にルーツのある生徒も多いため、タブレットを使えば翻訳しながら調べることができる。これまでなら手が止まってもおかしくない外国にルーツのある生徒も、興味深く調べ学習を行っていた。実際のところ、ブラジルのホームページを調べた内容には、日本よりも先進的な活動が見られた。生徒Aはさっそくタブレットで検索を開始した。そして、「エシカルっていろんな言葉があるな。エシカルファッションとか、エシカル消費とか。人や環境に配慮するってどういうことだろう」とつぶやきながらも、自分なりの言葉でまとめていた。生徒Aだけでなく、他の生徒たちも「エシカルって言葉はいろいろなところに使われているな。どれについてまとめたらいいんだろう」と話していたので、一度そこで中断した。そこまでに調べたことを伝えてもらおうと「人・社会・環境などに配慮すること」と答えた生徒がいたので、「社会に配慮するとは」と問うと、「よく分からないな…」と止まってしまう子もいた。それではただ調べたことを写しているだけで、深く理解できたとは言えない。そこで、「エシカル消費ということばを初めて聞く家族に説明できる伝わり方でまとめてみよう」と新たな課題を出した。そして、意見の中で生徒Aと同じように、「エシカルファッション」「エシカルコンシューマー」「エシカル消費」など色々なことばが混在していたので、「この中でみんなに一番関係しているのはどの言葉ですか」と問うと、「私たちでも買い物したり、物を使ったりすることはよくあるから、エシカル消費だと思う」と意見が出た。そこで、「次はみんなと一緒に考えていきたいからエシカル消費に絞ってまとめてみよう」と伝えた。まとめ方として、ロイロノートテキストにまとめる方法、紙に書いてまとめる方法、それに加えて資料も付け加えてよいと生徒たちには指示した。そうすることで、自分なりに分かりやすくまとめることができ、学びを深めていけるであろうと考えたからである。実際に生徒Aも「これ分かりやすいかも」と言いながら、エシカルのことを分かりやすくイラストでまとめた資料を準備していた。振り返りからも分かるように、自分で調べ学習をしたことにより、理解が深められたことが分かる。しかし、「自分ができることを見つけていきたいです」という言葉から、自分たちがしている行動についてはまだ具体的に見つけられていないことが分かる。

初めてエシカルという言葉を知りました。全く聞いたことのない言葉で難しそうと思ったけど、調べてみたり、みんなと考えていく中で少しずつ分かってきました。分かりやすいイラストを見つけられてよかったです。自分ができることも考えていきたいです。

資料 3 : 第 1 時を終えて生徒 A の振り返り

3.2 第 2 時 もっと知ろう！エシカル消費【手だて②】

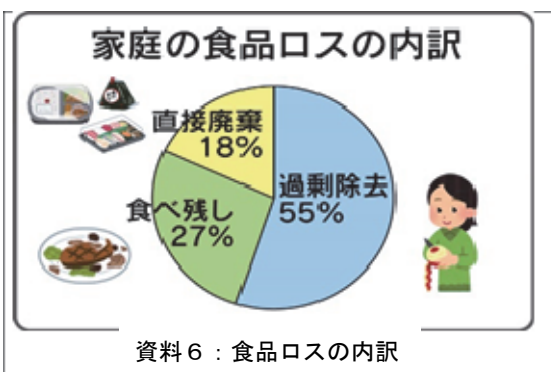
前回の授業の終わりにエシカル消費についてまとめたものを、ロイロノートに提出していたので、次の授業までにはその意見が把握できた。教師が、その中からみんなに伝えたい意見や、分かりやすい資料を見つけたものをピックアップしておき、第 2 時はその意見交流からスタートした。教師が説明するよりも生徒同士の伝え合いの方がより真剣に話を聞いていた印象だった。また、意見を伝える側も、「みんなに伝わりやすくするにはどうしたらよいか」ということを考えながら話すので、自分の意見も整理される。生徒 A も分かりやすい資料と文章でまとめたので、みんなに伝えてもらうことにした。そして、なぜエシカル消費が大切なのかという視点を持たせるため、資料 5、資料 6 を提示した。ここから生徒たちは、国産品だけだと日本に住む人たち全員は満足した食事ができないことや、食品ロスの多さを目の当たりにした。教師の「コロナウイルスの感染が流行し、私たちが手に入れられなくなったものはないですか」との問いかけに、「そういえばマスクが手に入らなかった」と気付く生徒たち。その背景には、マスクのほとんどを輸入に頼っていた現状があることを知った。今回のコロナウイルスの感染拡大による影響のように、ニューノーマル生活の視点をもったようであった。まとめとして、資料 7 をロイロノートで一斉配信し、エシカル消費を共通理解した。それから具体的に自分たちにできることは何かという課題に移った。エシカル消費について調べ始めたときは、エシカ



資料 4 : 生徒 A が使ったエシカル消費を示すイラスト



資料 5 : 国産品だけで作った食事



資料 6 : 食品ロスの内訳

ル消費は「自分たちには遠いもの」と捉えていた生徒が多かった印象だが、みんなで意見を共有し合い、自分たちにとって分かりやすいことばでまとめたので、「給食でおかわりをするのはエシカルだな」「移動教室で、必ず電気とエアコンを切っているか確認するのもエシカル」「うちのお母さんはいつもエコバッグ持って行ってる」など、意見がどんどん出てきた。その中で、「おかわりをするだけがエシカルではなくて、食べられる量だけよそったり、食べられそうにないなら事前に減らしたりするのもエシカルなのではないか」という意見や、「すぐ食べるなら棚の手前から取る方がいいけど、そうでないなら食べきれるように奥の物を取るのもエシカルかな」と、じっくり考える姿が出てきた。

生徒Aの振り返りからも「意識していないだけで、エシカルはたくさんありました。
自然と出来ていることが嬉しかったです。
気付いていないだけでもっとあるかもしれないから、家でも気にしてみたいです」との記述から、無意識を意識化することで、気付くことができたようである。そして、知らない間に、エシカル消費ができていた

ことに少し誇りを感じている様子も見てとれた。そして、その授業の終わりには「エシカル消費ってみんなの身近にこんなにたくさんあるんだね。授業以外でも気付いたら教えてね」とクラス全体に伝えた。その後、給食のおかわりの際に「エシカルだね」という言葉が出たり、掃除で水をなるべく少なく使っている友達を見て「エシカルじゃん」と伝え合っている生徒たちの姿が見られるようになった。

3.3 第3時 シンキングツールで検討しよう！マイエシカル宣言【手だて⑤】

授業の最初に、生徒たちは自分が考えたエシカル消費を出し合う中で、自分たちにも行動できることが多いと気づいた。そこで、自分がこれから継続して行動していきたいこと



今日はエシカル消費について前より理解できました。Bさんのまとめ方が分かりやすかったです。意識していないだけで、エシカルはたくさんありました。
自然と出来ていることが嬉しかったです。
気付いていないだけでもっとあるかもしれないから、家でも気にしてみたいです。

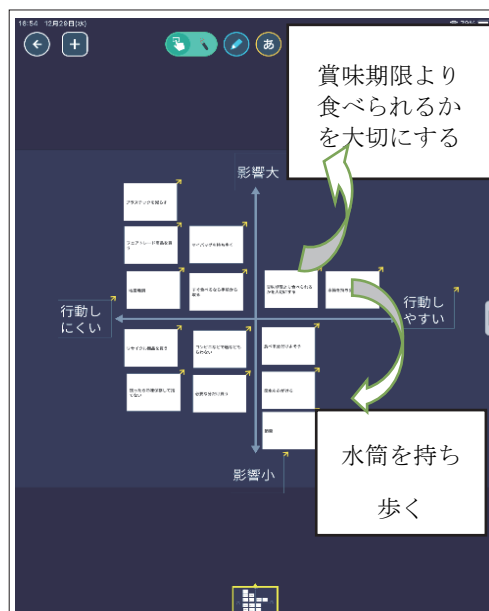
資料 8 : 第 2 時を終えて生徒 A の振り返り

を決め、「マイエシカル宣言」を作ることにした。「やるからには続けられるものがいい」「やって意味があることがいい」「やれることはいくつかありそうだけど、どれを選んでいいのかわからない」など様々な意見がでたので、「自分にとって大切で、続けられて、影響の大きいマイエシカル宣言」を決めるため、ロイロノートのシンキングツールを使うことにした。シンキングツールは、いくつかのテキストを比較したり分類したりすることができ、何が一番自分にとって実践しやすいかを可視化する方法として最適ではないかと考えた。その中でも今回は自分にとって優位となるものが分かりやすくまとめられる x y 座標を使っていくこととした。その方法は、生徒たちが考えたエシカル消費をテキストに一つずつ書いておき、それを全員に配布し、カードは各自が必要なもののみを使うというかたちにした。ここで重要になってくるのは x 軸と y 軸をどういった項目にするかということである。そこで先ほどの生徒たちのつぶやきの「やって意味があることがいい」という言葉から x 座標を「環境などへの影響が大きいかどうか」、「やるからには続けられるものがいい」という言葉から y 座標を

「行動のしやすさ」にすることにした。シンキングツールを使うことで、外国籍にルーツのある生徒でも選んで並び替えるという比較的簡単な方法で、自分の必要なものを取り入れることが出来ていた。生徒 A は、まず自分がやれそうな項目のカードを選別し、それを並び変え始めた。「これは簡単だけど、環境への影響も低そうだな」「これは影響は大きいと思うけど、続けられそうにないな」と一生懸命考えている様子であった。そして、出来上がったのが資料 10 である。この日の振り返りとして生徒 A は資料 11

- ・水筒を持ち歩く
- ・マイバッグを持ち歩く
- ・すぐ食べるなら手前から取る
- ・必要な分だけ買う
- ・地産地消
- ・食べる分だけよそう
- ・コンビニで箸などももらわない
- ・節電
- ・節水を心がける
- ・フェアトレード商品を買う
- ・残ったら冷凍保存して捨てない
- ・プラスチックを減らす
- ・賞味期限より食べられるかを大切にする
- ・リサイクル商品を買う

資料 9 : 生徒たちから出たエシカル消費項目



資料 10 : 生徒 A が考えたシンキングツール

エシカル消費は思っていたよりも簡単でやれそうなものが多かった。ただ、環境への大きさを考えるのが難しかった。実際には自分たちには影響が見えないものが多いから。でも続けることで意味はあると思う。

資料 11 : 第 3 時を終えて生徒 A の振り返り

のように書いた。「環境への大きさを考えるのが難しかった。実際には自分たちには影響が見えないものが多いから」という記述より、自分たちの行動がどれだけ影響していくかを考えることは難しかったことがうかがえる。しかしそれは裏を返せば、ただ単にできそうなことを並べただけではなく、自分事として考えられ、深い学びにつながったのではないかと考える。また「でも続けることで意味はあると思う」という言葉から、自分にも出来ることを続けていきたいという前向きさを感じられた。

3.4 第 4 時 決定しよう！マイエシカル宣言

前時で自分が続けて出来ることを可視化し、シンキングツールにまとめた生徒たちはいよいよマイエシカル宣言の決定と、実践計画を立てることになった。どの項目をマイエシカル宣言にするかは、生徒たちに委ねたが、その実践内容に無理がないかなどを確かめるため、グループでアドバイス活動を行うことにした。生徒 A ははじめ、マイエシカル宣言を「水筒をいつでも持ち歩く」にしようとして実践計画を立てていた。しかし、水筒を持ち歩いていなくてもあまり外で飲み物を買っていないことに気づき、これでは効果が小さいと感じたようで、資料 12 にあるようにグループでのアドバイスをもとにマイエシカル宣言を変更した。これまで「賞味期限＝食べられる期限」だと思っていたが、授業を通してそうでないことに気づき、新たに自分で調べ、実践していこうとする様子が分かる。そして資料 13

生徒 A：私は「水筒を持ち歩く」にしようと思います。理由は、学校では毎日水筒を持って来ているのに、どこかに出かける時は水筒をわざわざ持てないからです。

生徒 C：じゃあどこかに出かけたところでよく飲み物を買うの？

生徒 A：たまに買うかな。

生徒 C：それだとあんまり意味ないんじゃない？

生徒 A：そうか。

生徒 D：この「賞味期限より食べられるかを大切にする」というのはどうなの？

生徒 A：これまでは賞味期限過ぎたら食べられないと思って捨ててたけど、そうじゃないって分かったから。

生徒 C：分かる。うちの親も「まだ大丈夫。」って言うよ。

生徒 A：これの方がやりやすいかも。インターネットとかでもっと調べてみたいし。

生徒 E：自分も気になるからまた教えてほしい。

資料 12：生徒 A のマイエシカル宣言についてのアドバイス内容

私のマイエシカル宣言は

『賞味期限を正しく理解し、無駄をなくす！』

実践する期間 (10/14~12/8)

具体的な行動

- ・「賞味期限はどんな期限？」を課題として調べる。
- ・家のストック食材を調べ、賞味期限切れがないか確かめる。もしあった場合、調べたことをもとに本当に食べられないか確かめる。
- ・賞味期限切れにならないように、片づけ方を工夫する

資料 13：生徒 A のマイエシカル宣言と実践計画書

のようにマイエシカル宣言と実践計画書を作成した。この時にはまだ賞味期限について詳しく調べられなかったため家での課題とした。また、賞味期限を正しく理解した上での実

実践内容を考え、家での片付け方を工夫しようとする様子から、より自分事として課題を考え、実践しようとしていることがうかがえる。また、グループの仲間のマイエシカル宣言についてのアドバイス活動では、資料 14 の「私はいつもビニール袋をかばんに入れてるよ。そうすれば荷物は少なくて済むよね」とあるように、自分の実生活の様子を交えながら、一生懸命アドバイスをする姿が印象的であった。これまでは、思いはあってもそれを仲間に伝えたり広げたりする姿はあまり見られなかった生徒 A であったが、少しずつ自信がつき、いきいきと話し合いに参加する姿があった。そして、その日の振り返りを資料 15 のように書いた。この中の『賞味期限』のことは前から気になっていたし、家で調べてやってみます。D くんにおすすめをして、参考にしてくれたのが嬉しかったです。やっていることに自信がもてました」という記述より、仲間と話し合ったことで、自分が目指したいものがより明確になり、さらに意欲を高めている様子が伺える。また、自分の意見を仲間に伝え、広げられたことに自信をもてたようである。

3.5 第 5 時 実践発表会をしよう！

実践計画書(資料 13)に書いたように、生徒 A は「賞味期限はどんな期限？」という新たな課題をもとに、消費者庁のなどホームページを参考に、自分で調べまとめた。

生徒 D：僕は「マイバッグを持ち歩く」にしようと思います。
 生徒 C：どうしてそれにしたの？
 生徒 D：お母さんはいつも持ち歩いているけど、自分は無くて困ることがあるから。
 生徒 A：袋にお金出すのもったいないよね。
 生徒 E：でもわざわざいつも持ち歩くの大変じゃない？
 生徒 D：たしかに。それはそうだけど。
 生徒 C：あと、袋もかさばるよね。
 生徒 A：私はいつもビニール袋をかばんに入れてるよ。そうすれば荷物は少なくて済むよね。
 生徒 E：結局ビニール袋を使うってことはエシカルなのかな？
 生徒 A：一回で捨てるんじゃなくて繰り返し使うからエシカルだと思うけど。
 生徒 D：なるほど。それならやれそうだな。
 資料 14：生徒 D のマイエシカル宣言についてのアドバイス内容

今日はマイエシカル宣言を考えました。最初は、「水筒を持ち歩く」にしようと思ったけど、グループの子たちの意見を聞いて変更しました。『賞味期限』のことは前から気になっていたし、家で調べてやってみます。D くんにおすすめをして、参考にしてくれたのが嬉しかったです。やっていることに自信がもてました。 資料 15：第 4 時を終えて生徒 A の振り返り

資料 16 生徒 A が調べた賞味期限についての資料

それが資料 16 である。賞味期限は、おいしく食べられる期限であって切れてもすぐに捨てるべきではないことや、賞味期限後の食べきる目安の日数を探していた。しかし、調べてまとめていく中で、やはり賞味期限切れの物を食べることも、賞味期限切れにならないように工夫することが大切であると感じ、その実践をグループに報告した。その様子が資料 17 である。「このような計算式もあるみたいですが、あまり信用はないみたいですが、賞味期限切れにならないような工夫が大

切だと思いました」とあるように、実際に自分で調べてみることで、その方法は適切でないことに気づき、実践を変更したことが分かる。また、「それなので、棚を整理することにしました。手前の方に賞味期限の近いものを置くことで見やすくなって、使いやすくなりました。あとは災害用に備蓄するのを食べていく方法も

実践しています」という記述から、実際に自分の家でやれることをすぐに実践に移した様子が分かる。実践報告会はグループで行ったのだが、自信がある様子で発表をしていたのに加え、仲間の発表を時にはメモを取りながら熱心に聞き入っていた生徒 A の姿が印象的であった。本単元を終えて生徒 A は資料 18 のように振り返りを書いた。「意外にも自分が普段やっていることもエシカルだと分かって嬉しかったです」とあるように、自分で調べ、実践に移したことで、これまで無意識に行ってきたことを意識化できたことがうかがえる。また、「学校でも給食の時や掃除の時、電気を消す時に「エシカル」という言葉が使われていて、みんなも意識しているなと思いました。家でも母に話したら、実践できていることとまだできていないことがありました。これからも自分で出来ることを続けていきたい

私は「賞味期限を正しく理解し、無駄をなくす！」をテーマで実践しました。初めは、賞味期限が切れたものはどれくらいもつのかということ調べました。

$$\text{賞味期限後の食べきる目安 (月数)} = \text{賞味期限 (月数)} \times 1 / 10 \times 2 / 1$$

このような計算式もあるみたいですが、あまり信用はないみたいですが、賞味期限切れにならないような工夫が大切だと思いました。うちでは、ストック食材を入れておく棚があるので、それを調べてみました。実際に賞味期限の切れていたものが 8 個もありました。使いかけの粉や、一度も開封されていないジャムも出てきてびっくりしました。お母さんに確認したら、「棚の奥のほうにあって忘れていた。」と言っていました。それなので、棚を整理することにしました。手前の方に賞味期限の近いものを置くことで見やすくなって、使いやすくなりました。あとは災害用に備蓄するのを食べていく方法も実践しています。 資料 17：実践報告会の様子

今回、エシカルという言葉は初めて聞いたけど、今ではかなり身近に感じるようになりました。最初は難しい言葉だと思っていただけ、意外にも自分が普段やっていることもエシカルだと分かって嬉しかったです。実践報告会では、みんなの実践内容が工夫されていて「それもエシカルかあ」と思いながら、聞いていました。学校でも給食の時や掃除の時、電気を消す時に「エシカル」という言葉が使われていて、みんなも意識しているなと思いました。家でも母に話したら、実践できていることとまだできていないことがありました。これからも自分で出来ることを続けていきたいです。 資料 18：単元を終えて生徒 A の振り返り

す」とあるように、学校生活の中で意識する場面を増やしたことで、家庭での実践につながり、それを継続していくことが大切であると気づいたようであった。「先生、この前ショッピングモールでエシカル消費の看板を見つけたからおもわず写真に撮ったよ」（調理実習時に）「にんじんの皮も食べられるよね。これってエシカルだね」と話す生徒Aであった。実践は今も継続しており、3月にまとめの実践報告会を行う予定である。

4. 研究の成果

4.1 仮説1について

第1時は、生徒たちにとって身近なコンビニの取り組みを提示したことで、活発な話し合いになった。また、見つけてきたエシカル消費について、多くの生徒が報告に来たことから、生徒にとって身近なものを教材にしたことで主体的に考え、行動するようになったと言える。よって手だて①「エシカル消費と出合う場」の設定は有効にはたらいたとと言える。そして、資料18の記述にもあるように、学校生活の中でエシカル消費を見つけ、対話することで、エシカル消費をより主体的に考え、実践することにつながったと考えられる。よって手だて②「学校生活中でエシカル消費を見つける場」の設定は有効にはたらいたとと言える。さらに、資料18の「意外にも自分が…嬉しかったです」という記述や授業以外での生徒の言動などを教師が敏感に受け止め、生徒同士が認め合うことでより主体的に考え、実践できるようになったと言える。よって手だて③「無意識を意識化させる場」の設定は有効であったと言える。以上のことから仮説1は妥当であったと言える。

4.2 仮説2について

資料3の「全く聞いたことない…分かってきました」という記述や、資料16のようにICTを効果的に活用した調べ学習により、自分の課題に向け深く追究できた姿があった。また第1時で外国にルーツのある生徒を含め生徒たちが興味深く調べ学習を行っていた様子からICTを効果的に活用したことで、学びを深められたと言える。よって手だて④「自分で調べ学習をする場」の設定は有効にはたらいたとと言える。また、資料10、11より、自分の課題をより明確することができた様子から、手だて⑤「シンキングツールを活用する場」の設定は有効にはたらいたとと言える。以上のことから仮説2は妥当であったと言える。

5. 今後の課題

- ・今回、エシカル消費を食生活に限定したため、まだ狭い範囲でしか考えられていないことが課題である。今後は衣生活や住生活など生活全般に広げてエシカル消費を考え、実践していく授業づくりを目標としたい。

・授業づくりのツールとしてタブレットを活用することを構想した。家庭科においては、実習の時間を確保するのにも有効な手段であると感じるので、より効果的な活用を考えていきたい。

6. おわりに

コロナ下でのニューノーマル生活を考えることを目的として始めた実践であったが、生徒たちは、自分の日常生活を見つめ、新たなその家独自のニューノーマル生活を考えていてくれたように感じる。これからも身近なものを教材化し、一人一台タブレットを有効利用することを目指していきたい。

参考文献

- ・消費者庁ホームページ <https://www.caa.go.jp>
- ・ロイロノート School <https://help.loilonote.app>
- ・セブンイレブンホームページ <https://www.sej.co.jp>
- ・愛知県ホームページ <https://www.pref.aichi.jp>